



2023年度（2024年1月期） 第3四半期決算概要

ダイドーグループホールディングス株式会社
(東証プライム：2590)

2023年11月27日

01	2023年度第3四半期決算概要	P.04
02	セグメント別概況	P.11
03	参考資料	P.17

本資料内で記載する計数は百万円未満を切り捨て表示しているため、内訳と合計が合わない場合があります。なお、増減比等は、小数点第1位未満を四捨五入の上、表示しております。

本資料に記載されている、当社グループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の業績に関する見通しであり、これらは当社において現時点で入手可能な情報による当社経営陣の判断および仮定に基づいています。従って、実際の業績は、不確定要素や経済情勢その他リスク要因により、大きく異なる可能性があります。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなさるようお願いいたします。

- 2023年度第3四半期は、売上高1,652億円（32.6%増）、営業利益57億円（149.0%増）

各セグメントで価格改定効果があられ、全てのセグメント※で増収増益

- ✓ 国内飲料事業は新会社ダイナミックベンディングネットワーク設立による子会社増加効果で大幅増収。昨年10月と今年5月に実施した価格改定による効果があられ、大幅増益。
- ✓ 海外飲料事業は主力のトルコにおいて、高インフレ・リラ安によるコスト高は厳しさを増すものの、戦略的な価格改定などにより収益性を大幅に改善、第3四半期として過去最高の売上高と営業利益を記録。
- ✓ 医薬品関連事業はパウチ製品の好調な受注や価格改定効果により、第3四半期として過去最高の売上高を記録。
- ✓ 食品事業は価格改定効果があったほか、温暖な気候の継続や営業・販売促進活動の奏功によって、販売が好調に推移し、増収増益。

※育成中で売上計上のない希少疾病用医薬品事業を除く



01 2023年度第3四半期 決算概要

国内飲料事業における子会社増加効果、海外飲料事業における増収が寄与し、大幅増収

国内飲料事業の価格改定効果、海外飲料事業の収益性改善が寄与し、大幅増益

- 国内飲料事業は子会社増加効果を除いたオーガニックベースでも増収増益
- 海外飲料事業は超インフレ会計適用による影響を受ける中でも、第3四半期として過去最高の売上高と営業利益を達成

単位：百万円

		第3四半期（1/21～10/20）								
		2022年度		2023年度				（ご参考） 超インフレ会計適用前 影響額		
			構成比		構成比	増減率	増減額			
売	上	高	124,640	100.0%	165,278	100.0%	32.6%	40,637	164,465	812
営	業	利	2,326	1.9%	5,792	3.5%	149.0%	3,465	6,777	△985
経	常	利	2,603	2.1%	5,246	3.2%	101.5%	2,643	6,137	△891
親会社株主に帰属する 四半期純利益			736	0.6%	4,178	2.5%	467.7%	3,442	5,348	△1,169
E	P	S	46.99円		266.09円			219.10円		

2023年度第3四半期 連結業績 (セグメント別)



単位：百万円

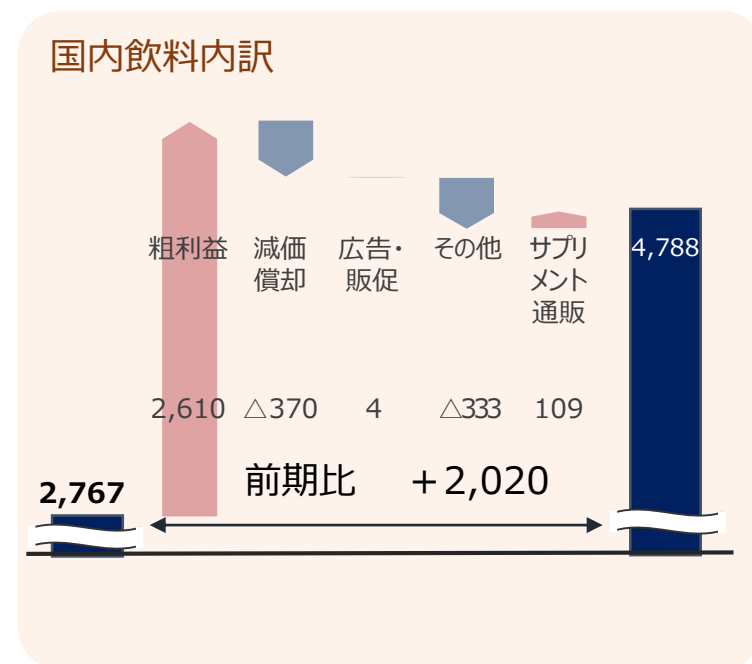
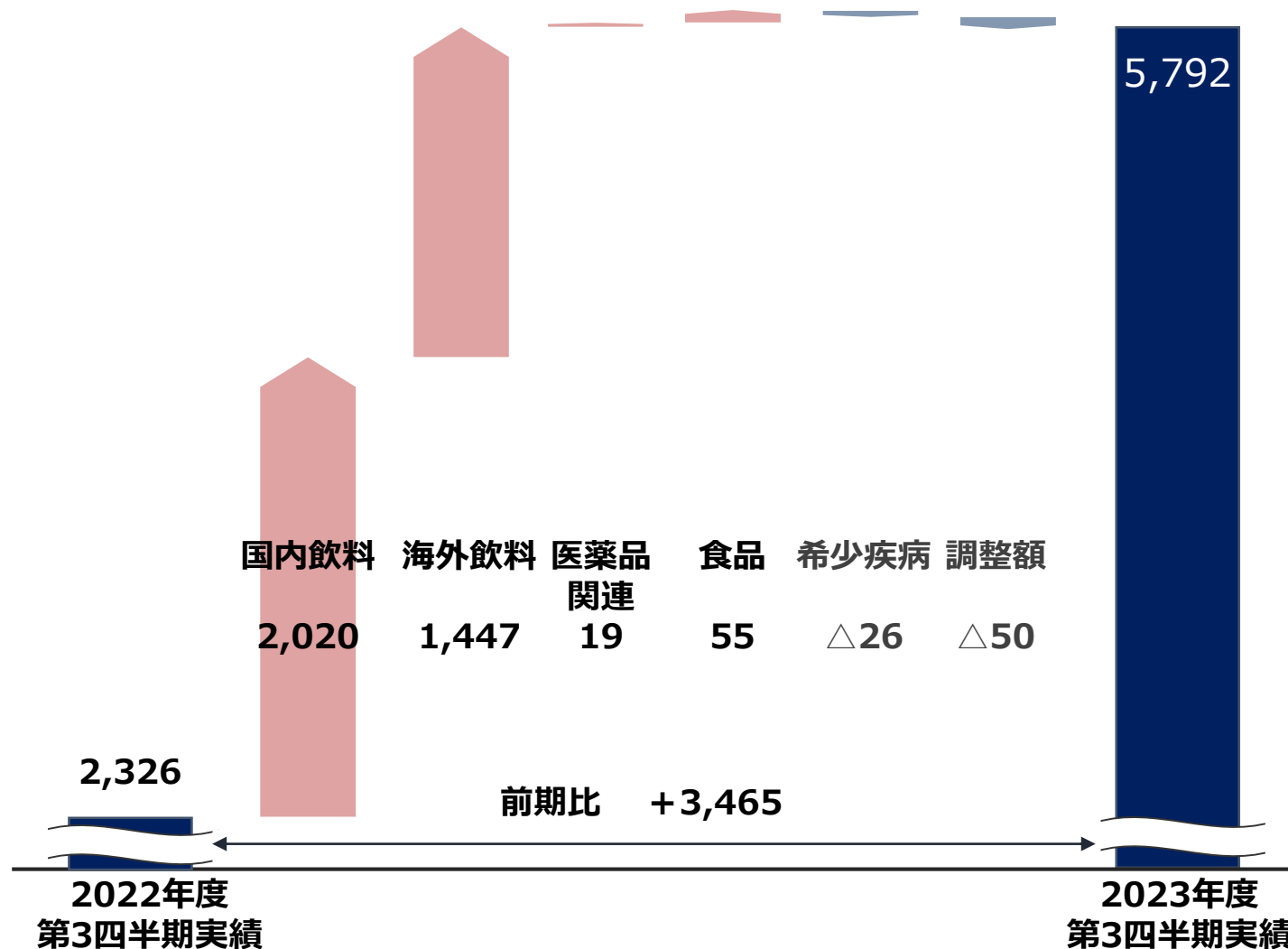
第3四半期 (1/21~10/20)

	超インフレ会計適用後				超インフレ会計適用前			
	2022年度	2023年度	増減率	増減額	2022年度	2023年度	増減率	増減額
国内飲料事業	83,554	117,957	41.2%	34,403	83,554	117,957	41.2%	34,403
海外飲料事業	15,507	20,628	33.0%	5,121	14,403	19,816	37.6%	5,413
医薬品関連事業	9,654	9,944	3.0%	289	9,654	9,944	3.0%	289
食品事業	16,445	17,060	3.7%	614	16,445	17,060	3.7%	614
希少疾病用医薬品事業	—	—	—	—	—	—	—	—
調整額	△521	△ 313	—	208	△521	△ 313	—	208
売上高合計	124,640	165,278	32.6%	40,637	123,536	164,465	33.1%	40,929
国内飲料事業	2,767	4,788	73.0%	2,020	2,767	4,788	73.0%	2,020
海外飲料事業	△752	694	—	1,447	163	1,680	930.4%	1,517
医薬品関連事業	377	397	5.2%	19	377	397	5.2%	19
食品事業	1,316	1,371	4.2%	55	1,316	1,371	4.2%	55
希少疾病用医薬品事業	△380	△ 406	—	△26	△380	△ 406	—	△26
調整額	△1,002	△ 1,053	—	△50	△1,002	△ 1,053	—	△50
営業利益合計	2,326	5,792	149.0%	3,465	3,242	6,777	109.0%	3,535

2023年度第3四半期 営業利益の増減要因（前期比）

国内飲料事業における売上総利益の改善や、海外飲料事業における収益性の改善が連結の増益を牽引

単位：百万円



2023年度 通期連結業績予想の修正



第3四半期の海外飲料事業と食品事業の想定を上回る実績などを踏まえ、通期業績予想を上方修正

単位：百万円

		通期										
		2022年度		2023年度（予想）						前回発表予想		
		構成比		構成比		増減率	増減額	（ご参考） 超インフレ会計適用前 影響額		差異		
売	上	高	160,130	100.0%	211,800	100.0%	32.3%	51,669	210,700	1,100	210,000	1,800
営	業	利	707	0.4%	2,500	1.2%	253.5%	1,792	3,500	△1,000	2,100	400
経	常	利	591	0.4%	1,600	0.8%	170.4%	1,008	2,800	△1,200	1,000	600
親会社株主に帰属する 当期純損益			△507	△0.3%	800	0.4%	—	1,307	2,400	△1,600	400	400
E	P	S	△32.40円		50.93円		83.33円				25.47円	

2023年度 通期連結業績予想の修正（セグメント別）



単位：百万円

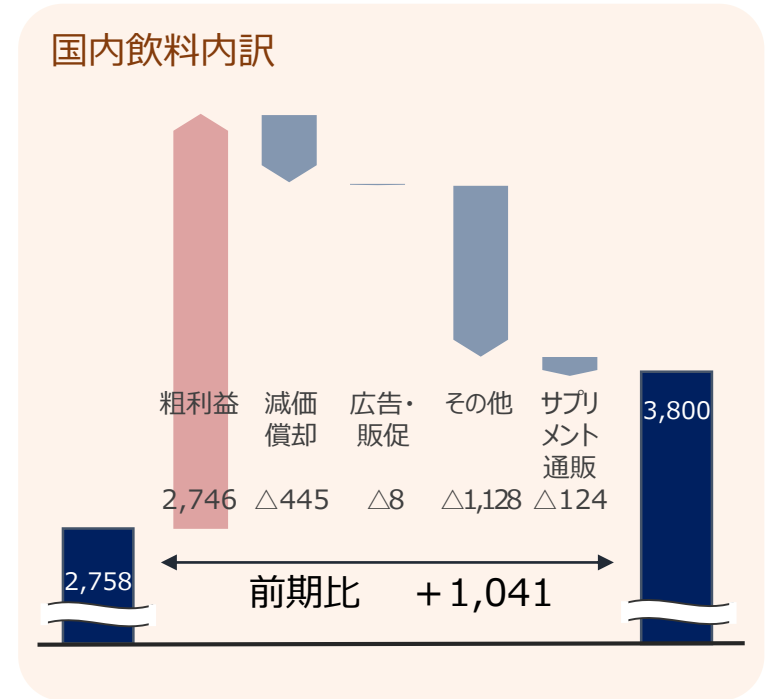
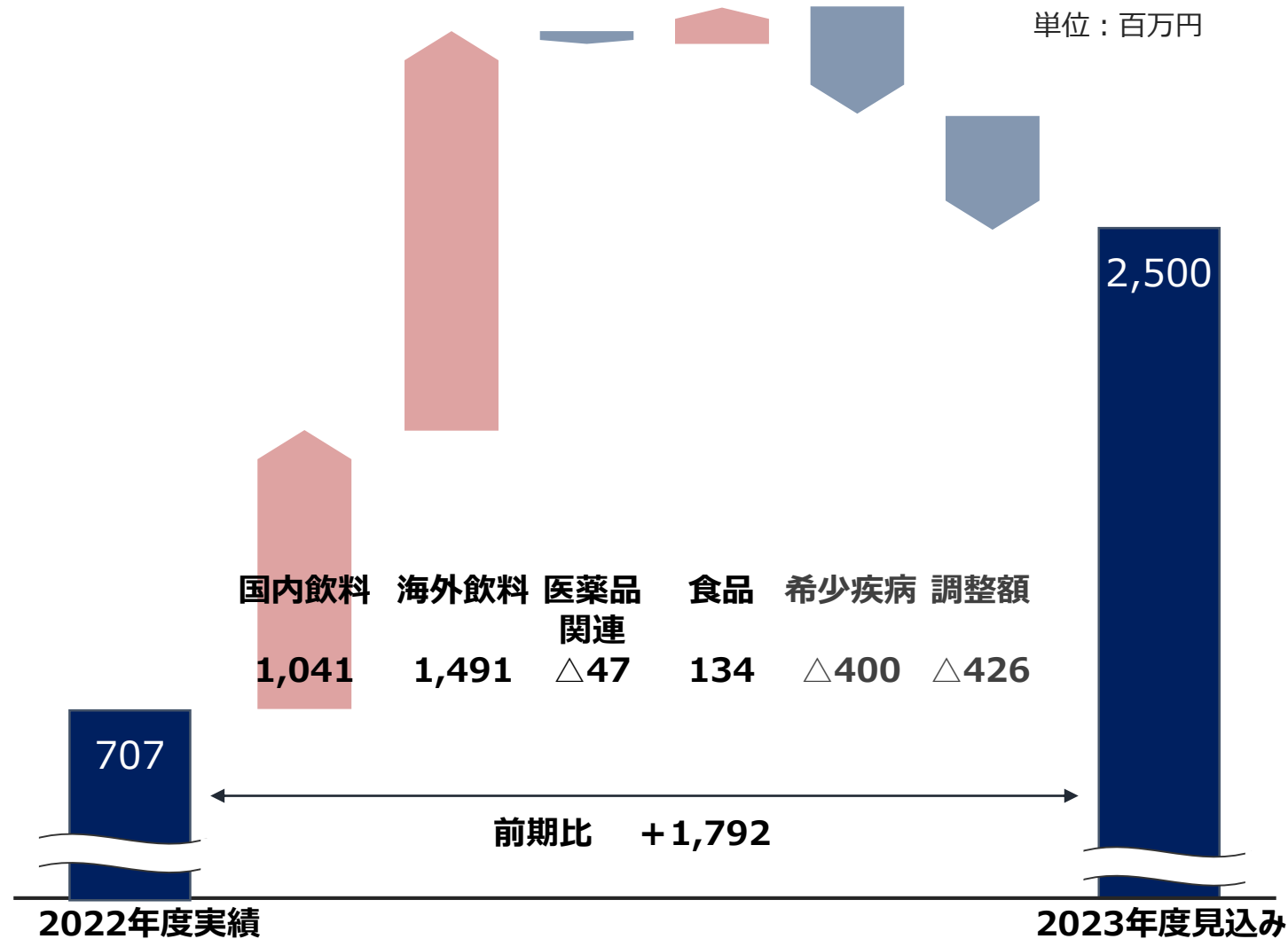
通期

	超インフレ会計適用後						超インフレ会計適用前					
	2022年度 通期実績	2023年度 予想	増減率	増減額	前回発表予想	差異	2022年度 通期実績	2023年度 増減率	増減額	前回発表予想	差異	
国内飲料事業	109,770	153,000	39.4%	43,229	154,400	△1,400	109,770	153,000	39.4%	43,229	154,400	△1,400
海外飲料事業	18,909	25,900	37.0%	6,990	23,900	2,000	18,339	24,800	35.2%	6,460	22,900	1,900
医薬品関連事業	12,522	13,000	3.8%	477	13,000	0	12,522	13,000	3.8%	477	13,000	0
食品事業	19,565	20,500	4.8%	934	19,300	1,200	19,565	20,500	4.8%	934	19,300	1,200
希少疾病用医薬品事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
調整額	△636	△ 600	—	36	△600	0	△636	△ 600	—	36	△600	0
売上高合計	160,130	211,800	32.3%	51,669	210,000	1,800	159,561	210,700	32.0%	51,138	209,000	1,700
国内飲料事業	2,758	3,800	37.8%	1,041	4,300	△500	2,758	3,800	37.8%	1,041	4,300	△500
海外飲料事業	△1,091	400	—	1,491	△100	500	52	1,400	2544.0%	1,347	900	500
医薬品関連事業	347	300	△13.8%	△47	300	0	347	300	△13.8%	△47	300	0
食品事業	765	900	17.5%	134	800	100	765	900	17.5%	134	800	100
希少疾病用医薬品事業	△499	△ 900	—	△400	△1,100	200	△499	△ 900	—	△400	△1,100	200
調整額	△1,573	△ 2,000	—	△426	△2,100	100	△1,573	△ 2,000	—	△426	△2,100	100
営業利益合計	707	2,500	253.5%	1,792	2,100	400	1,851	3,500	89.1%	1,648	3,100	400

※国内飲料事業には、連結子会社の増加に伴う売上増約390億円を含みます。

国内飲料事業と海外飲料事業の収益改善が増益に大きく寄与

単位：百万円



02 セグメント別概況

子会社増加効果により売上高が伸長、利益面は価格改定効果があらわれ、増益
子会社増加効果を除外したオーガニックベースでも、増収増益

単位：百万円

	第3四半期						通期						前回発表予想 差異	
	2022年度		2023年度		増減率	増減額	2022年度		2023年度		増減率	増減額		
	実績	構成比	実績	構成比			実績	構成比	見込み	構成比				
売上高	83,554	-	117,957	-	41.2%	34,403	109,770	-	153,000	-	39.4%	43,229	154,400	△1,400
営業利益	2,767	3.3%	4,788	4.1%	73.0%	2,020	2,758	2.5%	3,800	2.5%	37.8%	1,041	4,300	△500
減価償却費	3,407		3,818		12.1%	410	4,632		5,000		7.9%	367	5,000	0
のれん償却額	-		77		-	77	-		100		-	100	100	0

(対象期間：1月21日～10月20日) □

- ▶ ダイナミックベンディングネットワークの設立による子会社増加効果により、大幅増収
- ▶ 容器・包材価格等によるコスト増を価格改定による効果で吸収し、大幅増益
- ▶ 来年度以降の適正な利益水準の確保に向け、今年11月に自販機チャンネルにおける価格改定を実施 (p.21)
- ▶ 流通チャンネルでは、競合他社の販促投資が激化する中、利益を重視した活動方針のもと効果的な販促活動を実施し、価格改定による販売数量への影響を最小限に留めるとともに、価格改定による効果で増収
- ▶ サプリメント通販は、ロイヤルユーザー数が過去最高を記録、さらなる定期顧客の獲得に向けて取り組みを進めていく

■ チャンネル別売上高・販売数量

単位：百万円/千本

	2022年度		2023年度		増減率	増減額
	実績	見込み	実績	見込み		
売上高	自販機	70,609	104,797		48.4%	34,188
	流通・海外※	9,569	9,901		3.5%	332
	サプリメント通販	3,375	3,258		△3.5%	△117
	合計	83,554	117,957		41.2%	34,403
販売数量	自販機	809,001	1,049,029		29.7%	240,028
	流通	176,603	165,261		△6.4%	△11,341
	合計	985,604	1,214,290		23.2%	228,686

※「海外」には海外向け輸出分を計上。

主力のトルコ事業の躍進により、第3四半期として過去最高の売上高と営業利益を記録

単位：百万円

	第3四半期								通期						前回発表予想 差異	
	2022年度		2023年度		(ご参考)				2022年度		2023年度					
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	増減額	実績	影響額	実績	構成比	見込み	構成比	増減率	増減額		
売上高	15,507	-	20,628	-	33.0%	5,121	19,816	812	18,909	-	25,900	-	37.0%	6,990	23,900	2,000
営業損益	△752	△4.9%	694	3.4%	-	1,447	1,680	△985	△1,091	△5.8%	400	1.5%	-	1,491	△100	500
減価償却費	549		645		17.4%	95	330	314	718		1,500		108.8%	781	1,500	0
トルコリラ	7.86円		5.45円		△2.41円		6.28円	-	7.09円		5.20円		△1.89円		5.20円	0.00円
中国元	19.47円		19.72円		0.25円		-	-	19.52円		19.50円		△0.02円		19.50円	0.00円

※ トルコリラは超インフレ会計適用前は期中平均レート、適用後は期末レートを適用

(対象期間：1月1日~9月30日)

▶ トルコ

- インフレやリラ安が継続する中、戦略的な価格改定と販売促進活動の機動的な実施により販売ボリューム・金額ともに増加し、現地通貨ベースの売上高は前年の約1.8倍
- インフレやリラ安を背景とした原材料価格の高騰のほか、人件費や物流費の増加などコスト環境が厳しい中でも、増収やコスト削減施策の効果で、大幅増益

▶ その他のエリア

- 中国エリアにおいては、現地製造品の販売が引き続き好調に推移し、中国飲料市場の無糖茶カテゴリーにおいて一定のポジションを獲得

■ トルコ飲料事業の現地会計ベース実績

2023年度前年同期比	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	累計
売上高	+110%	+48%	+91%		+78%
販売ボリューム	+0.1%	△9.2%	+23.3%		+4.3%

医薬部外品のパウチ製品の好調な受注が牽引し、第3四半期として過去最高の売上を達成

単位：百万円

	第3四半期						通期							
	2022年度		2023年度				2022年度		2023年度				前回発表予想	
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	増減額	実績	構成比	見込み	構成比	増減率	増減額	差異	
売上高	9,654	-	9,944	-	3.0%	289	12,522	-	13,000	-	3.8%	477	13,000	0
営業利益	377	3.9%	397	4.0%	5.2%	19	347	2.8%	300	2.3%	△13.8%	△47	300	0
減価償却費	878		864		△1.6%	△13	1,170		1,200		2.5%	29	1,200	0

(対象期間：1月21日～10月20日) □

- 医薬部外品のパウチ製品の受注が好調なことに加え、昨年下半年以降に実施した価格改定による効果があらわれ、増収
- 増収効果で原材料価格の上昇による影響を吸収し、増益
- パウチラインはフル稼働が続き、増産に向けた生産体制の強化に引き続き取り組む

■ 大同薬品工業の工場の概要

	製造品目	年間生産能力	
		ライン	本数
本社工場 (奈良)	びん	4ライン	350百万本
	パウチ	1ライン	30百万袋
関東工場 (群馬)	びん	1ライン	150百万本



大同薬品工業で
受託製造可能な容器形態

価格改定効果に加え、猛暑や温暖な気候による販売好調で、増収増益

単位：百万円

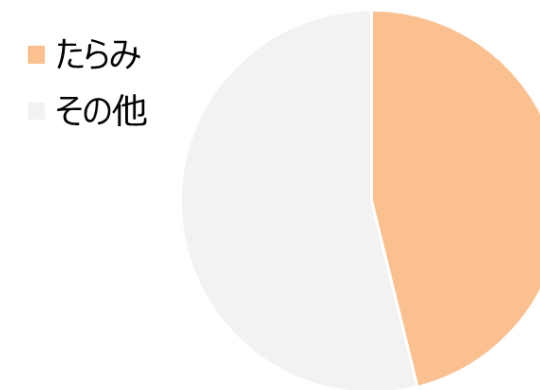
	第3四半期						通期						前回発表予想	
	2022年度		2023年度				2022年度		2023年度				前回発表予想	差異
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	増減額	実績	構成比	見込み	構成比	増減率	増減額		
売上高	16,445	-	17,060	-	3.7%	614	19,565	-	20,500	-	4.8%	934	19,300	1,200
のれん等償却前営業利益	1,580	9.6%	1,635	9.6%	3.5%	55	1,117	5.7%	1,251	6.1%	12.0%	134	1,151	100
のれん等償却額	263	1.6%	263	1.5%	0.0%	0	351	1.8%	351	1.7%	0.0%	0	351	0
営業利益	1,316	8.0%	1,371	8.0%	4.2%	55	765	3.9%	900	4.4%	17.5%	134	800	100
減価償却費*	632		663		4.9%	30	848		1,000		17.8%	151	1,000	0

*減価償却費には、一部、のれん等償却額に該当する費目を含む

(対象期間：1月1日~9月30日)

- 猛暑や最盛期以降も温暖な気候が継続したことにより、ドライゼリー市場は前年比3%増、蒟蒻パウチゼリー市場は前年比6%増と伸長
- 昨年10月に実施した価格改定による効果のほか、温暖な気候の継続や営業・販売促進活動の奏功により最盛期以降も販売が好調に推移し、増収
- 費用面では円安やインフレに起因する果肉や糖類などの原材料価格の高騰のほか、工場の操業に係る労務費などが上昇したものの、増収効果で吸収し、増益

■ たらみのドライゼリー市場シェア



※当社調べ、PB含む

将来の収益ドライバーとして、「希少疾病用医薬品事業」を育成

希少疾病用医薬品事業のビジネスモデル



パイプライン (2023年11月現在)

- **DYD-701 (LCAT遺伝子導入前脂肪細胞)**
 予定適応症：「家族性LCAT欠損症」
 千葉大学にて家族性LCAT欠損症患者を対象に医師主導治験を実施中
- **DYD-301 (amifampridine)**
 予定適応症：「ランバート・イートン筋無力症候群」
 厚生労働省から希少疾病用医薬品の指定を受けており、現在、日本における薬事承認取得をめざして臨床開発中
 （第Ⅲ相臨床試験の良好な解析結果の速報を取得）



03 參考資料

海外飲料事業の主要国であるトルコの子会社の財務諸表について、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」に定められる要件に従い、2022年度第2四半期連結会計期間より、会計上の調整を加えております。本資料内では「**超インフレ会計**」と表記します。

対象セグメント

海外飲料事業

記載のポイント

必要に応じ、超インフレ会計適用前の参考値を記載しております。

IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」の概要

①超インフレ経済下とは、3年間の累積インフレ率が、100%に近づいているかまたは100%を超えている状態（トルコは2022年3月期に100%超）

②日本円換算時、資産・負債及び収益・費用項目を決算日レートで換算しなければならない。

	従来基準	IAS第29号適用後
BS科目	決算日レート	決算日レート
PL科目	期中平均レート	

③物価指数の変動を財務諸表に反映する必要がある

■ バランスシートへの影響

・棚卸資産、有形・無形固定資産等の**非貨幣性項目**は取得日・取引日から、資本金は出資時点から、それぞれ期末時点までの物価変動に応じて修正再表示

・利益剰余金は期末時点までの累積的な影響を反映

■ 損益計算書への影響

・すべての科目を、原則取引ごとに取り引時点から期末時点までの物価変動に応じて修正再表示

貸借対照表への主な影響

金融資産	有利子負債
売上債権	仕入債務
棚卸資産 ①	その他
有形固定資産	純資産
・無形固定資産	資本金 ②
その他	利益剰余金 ③

- ①** 取得日・取引日から期末時点の物価変動に応じて修正再表示
- ②** 出資時点から期末時点の物価変動に応じて修正再表示
- ③** 期末時点までの累積的な影響を反映

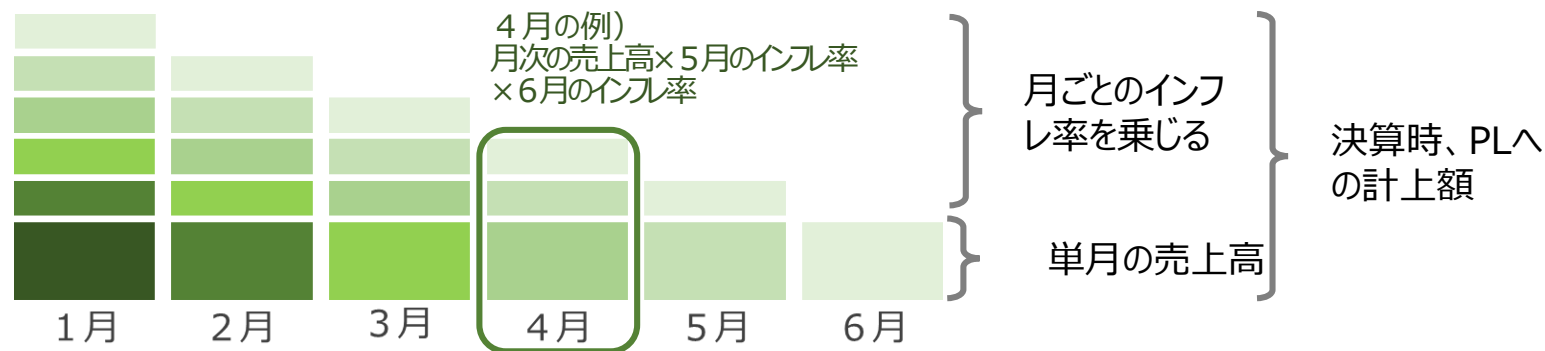
損益計算書への主な影響

(百万円)	連結PLへの影響額 (従来基準との差異)
売上高	812
売上原価	
売上総利益	
販管費	
減価償却費	
営業利益	△985
営業外損益	94
経常利益	△891
法人税等	
当期純利益	△1,169

単月ごとにインフレ率を乗じ、現地の財務諸表を作成
修正再表示後の資産をベースに、減価償却費
(製造原価/販管費)等を再計算

法人税等調整額の増加

売上高・コストの計上イメージ (円換算前)

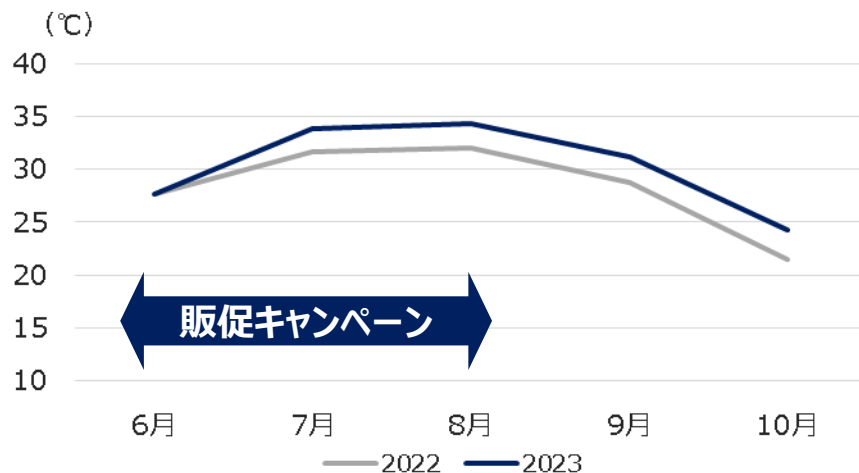


最盛期である6/1～8/31にかけて、止渴飲料8品の購入を後押しする販促キャンペーンを実施
 「ミウ おいしい水」の6～8月期の販売数量が前年比117%となるなど、価格改定による数量減を最小限に留める

■ キャンペーン対象商品



■ 東京都の日最高気温の月平均値



※気象庁のデータをもとに当社作成



©赤坂アカ×横槍メンゴ／集英社・【推しの子】製作委員会

継続するコスト上昇に対応し、価格改定の実施を含め適正な利益水準の確保に取り組む

コストの見立てと価格改定

- 原油価格の高止まりや円安の進行に伴い、来期以降も原材料・資材価格、加工賃、配送費など、コストの上昇傾向は続く見込み
- 事業全般を通じたコスト削減に取り組むとともに、価格改定を通じて適切な利益水準の確保をめざす
- 販売数量の維持に向けては、高パーマシン※先の新規獲得・引き上げ防止や電子マネー決済対応機の展開などに取り組む

※自販機 1 台当たりの売上

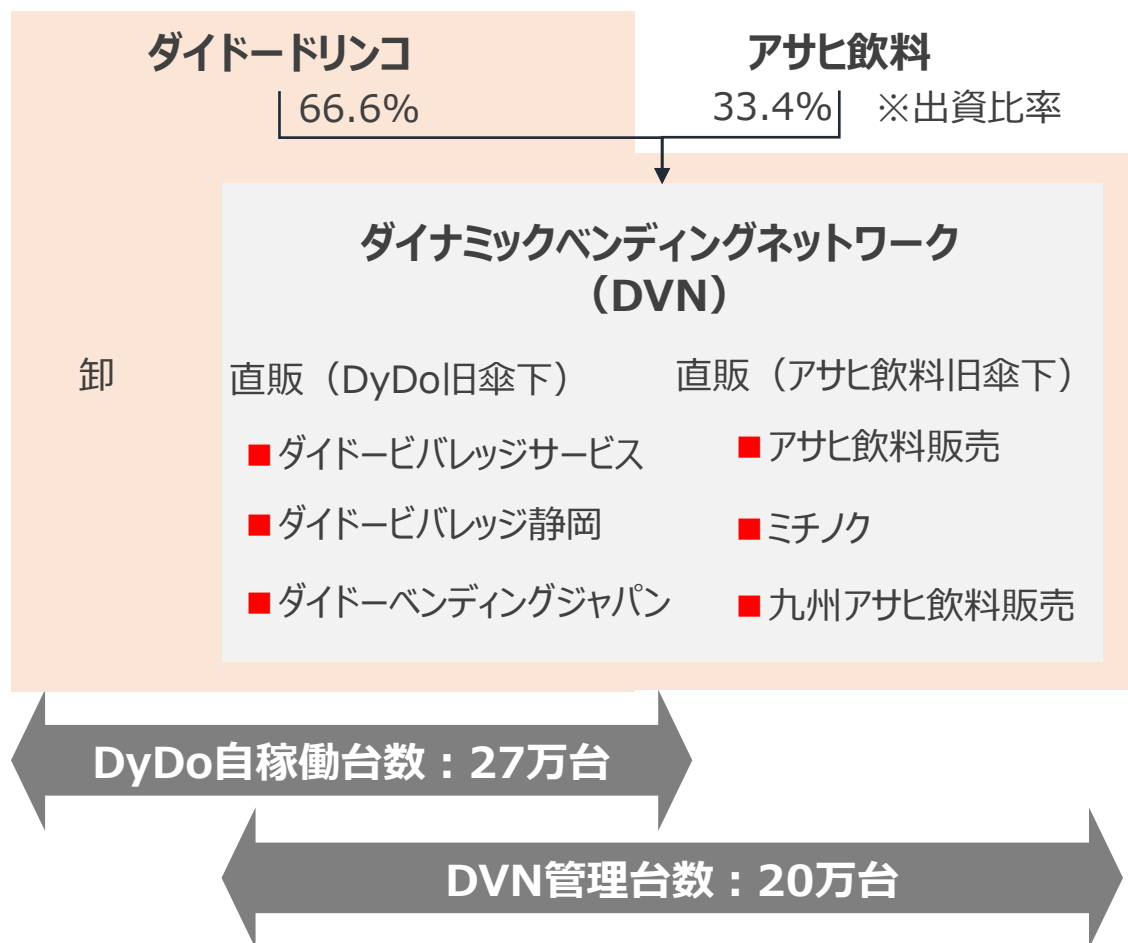
2022年度以降の価格改定の概要

	2022年10月1日～	2023年5月1日～	2023年11月1日～
商品	ボトル缶・PETコーヒーとソフトドリンク※を中心	SOTコーヒーを中心	ボトル缶・PETコーヒーとソフトドリンク※を中心
チャネル			
自販機	●	●	●
流通	●	●	—
価格改定額	希望小売価格（税抜）を +9～25%	希望小売価格（税抜）を +7～22%	自販機推奨価格を +10～30円

※一部対象外の商品あり

アサヒ飲料旧傘下子会社3社のDyDoグループへの統合作業を進め、一体的な自販機運営をめざす

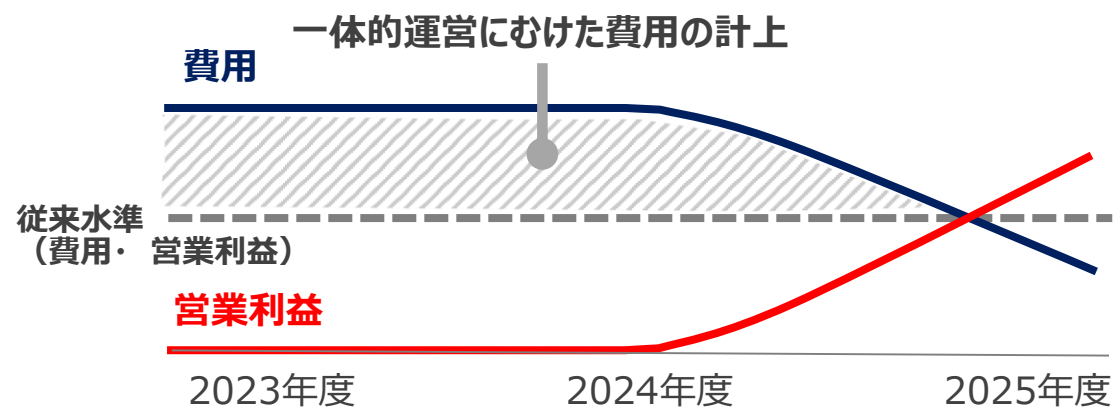
国内飲料事業（自販機チャネル）の概要



ダイナミックベンディングネットワークの運営計画

2023年度	2024年度	2025年度
基盤の整備 ・決算日の変更 ・システムの導入	最適化 ・アサヒ飲料旧傘下子会社にSM・O導入予定 ・配送ルートの効率化 ・拠点の見直し	一体的運営

DVNにおける費用と営業利益のイメージ



自販機オペレーションの計画立案にAIを活用し、さらなる効率化を進める

今後もスマート・オペレーションの進化と導入先の拡大に取り組み、自販機市場における確固たる優位性を確立する

- スマート・オペレーションに対応した新たな基幹システムに刷新するとともに、訪問先リストの計画立案にAI機能を導入
(2023年度に全営業所への展開完了予定)

- 将来的にはアサヒ飲料旧傘下子会社や共栄会※へのスマート・オペレーションの展開をめざす

※DyDo自販機の特約オペレーター

■ スマート・オペレーションにおけるオペレーション・フロー



■ スマート・オペレーションの導入状況

